

あかつかやま

2014年2月 No. 49



思いのまま(紅白の花をつける梅)

CONTENTS

| | | | | |
|-----|---|-----------------------|------|---|
| ・ 特 | 集 | 私ときよぎよランド・水族館遍歴 | 安原健允 | 2 |
| ・ 付 | 録 | 発見! あかつかやま | | 4 |
| ・ イ | ベ | 「ワクワク工房～木の実でカニを作ろう～」 | | 5 |
| ・ ミ | ニ | 絵馬に願いごと | | 6 |

特集

私ときよぎよランド・水族館遍歴

安原健允

ぎよぎよランド名誉館長（日本大学名誉教授 農学博士）

赤塚山公園の機関誌「あかつかやま」第49号の原稿を書いている今、ロシアのソチでは冬季オリンピックが開幕し、日本の選手の活躍が期待されている。そして、46年ぶりという大雪の世界が本州南岸、特に東京や関東圏に広がり交通が麻痺していると報じられた。

年初めの号に何かを書くのが恒例になっていることから、今年も編集委員の方から話があり、思案の結果、表題のような私の水族館遍歴を書くことにした。

ぎよぎよランドは、昨年平成25年（2013）7月21日に開園20周年を迎えた。構想、企画、設計、施工、建設、完成までの期間が約2年、豊川市の田中泰雄市長さん始め、担当の部署の方々の団結力と実行力が現在の赤塚山公園、ぎよぎよランドを市民に愛され、当初の「三世代一単位」というコンセプトは、四世代が集まり団らんをしている公園、福祉は公園から、「四世代一単位」となった今日の姿を映し出している。私も、当初からお手伝いをさせて頂き、その頃の経験は、ぎよぎよランドの開園20周年記念号「赤塚山公園園報第3号」、また関連の記事を創刊号に書かせていただいたので、本号では私と水族館とのかかわりについて記すことにする。

先日私の仕事場に行っている物置兼用の書斎を整理していたら、学生時代のノートやプリントが入っている紙袋が出てきた。開けてびっくり、その中に1955年12月12日、1956年11月29日と日付のあるガリ版刷りのプリントが入っていた。当時の授業（講義）は、今ほど教科書や配布される資料、教材が豊富に揃っていたわけではなく、全てがわら半紙にガリ版刷りのものであった。教授が原稿を教室（研究室）の助手の先生か字の上手な学生に渡してロウ引きで油紙の原紙に鉄筆で書いて、インクをたっぷりつけ、ローラを引いて

謄写版刷りのものであった。このプリントは日付の日の授業中に先生から配られたもので、懐かしく、しばらく読みふけた。出てきたプリントは、水族館論（写真1）、水産学実習諸調査項目集（共に小久保清治教授）。水産動物分類学、水産動物解剖学（共に石川昌教授）（写真2）。藻類学・水産植物学（新崎盛敏非常勤講師）。水産動物学実験（魚類生理学）（三好晋教授）という、当時学会を代表する錚々たる先生方によるものであった。プリントといえば1~2枚の用紙を想像されるだろうけれど、そのプリントは、例えば水族館論では21頁もの厚さがあった。

現在のように各地に大型の水族館が建設されている時代とは違い1956年（昭和31年）代では、水族館の多くが木造建築で、水族の飼育展示に用いる海水や淡水は直接海や湖から取り入れる開放式水族館であったから、多くの水族館は海岸や湖岸に建てられていた。小久保教授は、当時建設されたばかりの淡水魚専門の十和田水族館の館長を兼ねておられ、私の先輩が飼育員として就職されていた。学生だった私は雪解けを待って展示用の魚を東京から夜行列車で十和田水族館に徹夜で運んだ。

私は、当時開設されたばかりの「学芸員」試験を受けて水族館に就職できればとも思っていた。試験は文部省管轄の国家試験で試験に合格するとまず学芸員補という資格が与えられ、その後1年間博物館（水族館）研修、経験と実績を積んでその成果が認められれば晴れて学芸員になれた。試験は12~13科目であったと思うが、試験には免除科目があった。それは、大学で教職課程を取得していれば、その中の心理学や教育学、視聴覚研究などの関連科目は国家試験では免除され、受験科目は博物館法などの7~8の専門科目

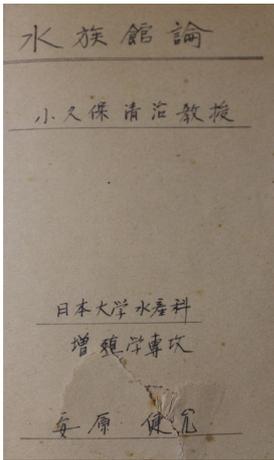


写真1 (左) 水族館論教材 表紙 1956年

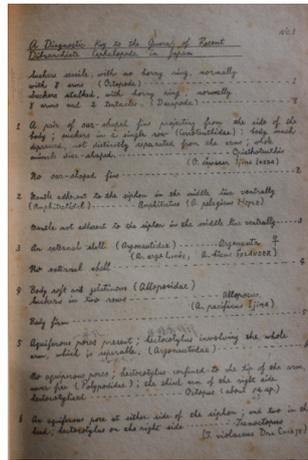


写真2 (右) 水産動物分類学教材第1頁 1955

最近訪れた水族館



写真3 バスダガマ水族館 ホルガール (2011)



写真4 EXP2012 YEOSU 水族館 韓国 (2012)



写真5 サケの科学館 札幌 (2013)

だけであった。そのために教職科目を受講し、理科・技術・職業などの教員免許状を取得した。「芸は身を助ける」という故事があるが、教員免許状があったことで東京・世田谷の高等学校に就職し理科の教員としての道を進むことになった。高校ではクラブ活動が盛んで理科部・生物部の顧問をしたのがきっかけで再び水族館との出会いが始まり、学校新聞に「日本の水族館」として連載した。これが水族館研究の始まりで、夏休み、冬休み、そして春休みを利用して生徒達と各地に生物採集、調査などに出かけながら水族館にも立ち寄り資料を集めた。小久保教授の水族館論は、わが国の大学における専門科目として最初の講座、水族館論であったと思う。なつかしいこの時受講した水族館論のプリントは私の宝物になった。助手の先生は、「水族館の研究」という著書を出され、水族を飼育する場合、魚と水草の割合、呼吸に使用される酸素量と炭酸同化作用（光合成）によって緑色植物が放出する酸素との関係（バランスド アクアリウム）を研究され、京都大学で農学博士の学位を取得された。先生は学芸員も取得されている。この先生は私の恩師、現在もご指導を頂いている。

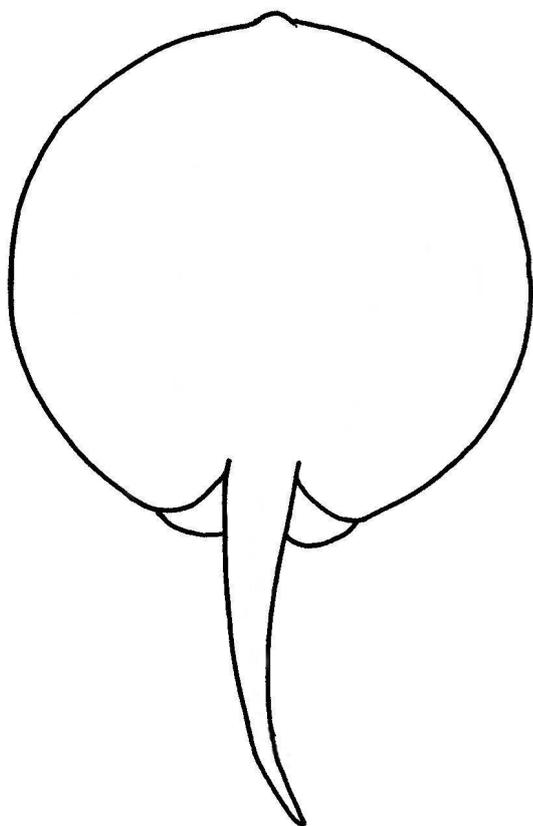
私の最近の研究は、駿河湾深海生物の標本と記録の整理。各地の水族館を訪ねて飼育展示されている水産生物の観察。また、“地域の活性化と海洋・海事博物館、水族館の役割”としてそれぞれの地域と水族館の関わりについて調査し学会誌に投稿している。本年3月に発行される一四国、九州、および、沖縄県の水族館を中心に一をもって、約80%の水族館を訪問し現状などを発表したのので、この号をもって日本一周水族館の巡歴が一先ず終結する。一昨日印刷所から届いたゲラ刷り原稿を校正しているところである。しかし、まだ訪ねていない水族館や、新たに建設された水族館があるので、これからも身体が許す限り水族館の訪ね歩きは続けたいと思い収集した資料の整理をしている。そして関係する方々に新たな情報のお知らせを頂きたいところである。

付録 発見!あかつかやま

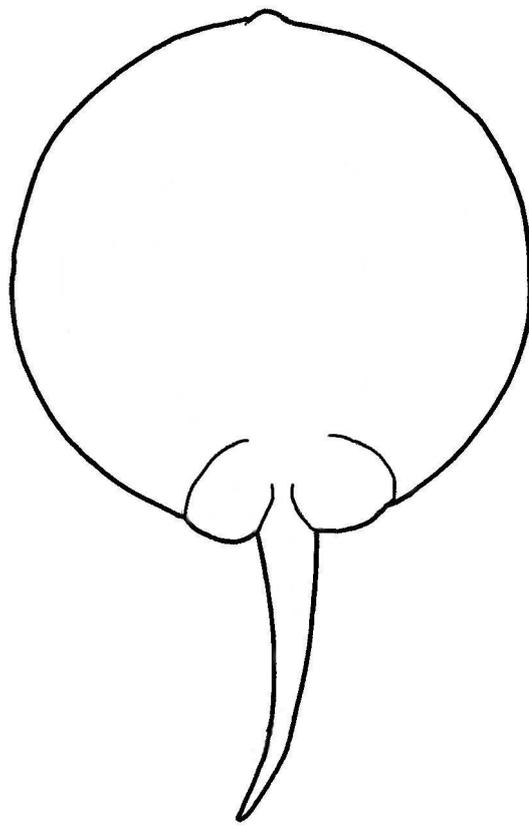
さかな編 ^{へん} ～ からだ ～

モトロ(たんすいエイ)のからだは ほかの さかなとは ちがう
とくちょうが あります。

かんさつして それぞれの ぶぶんを かきいれてみよう。



おもて (せなかがわ)



うら (おなかがわ)

ヒント

め くち えらあな みずのでるあな はな とげ

(こたえは、まどぐちに よういして あります。)

※速報 : 2月14日、モトロが8匹の赤ちゃんを産みました!!

あかつかやま NO.49 (2014)

イベント

開園20周年記念 **ワクワク工房**



「木の実にカニを作ろう」

～ 3月21日(春分の日) 開催 ～

〈内容〉 赤塚山公園で採れた木の实 (モミジハフウ・ナンキンハゼ・ヤシャブシ) を使ってカニの置物を作ります。

参加無料

〈時間〉 **午前の部** 午前 11 時～ 正午
午後の部 午後 1 時 30 分 ～ 2 時 30 分



〈場所〉 ぎよぎよランド 2 階 創造の部屋

〈定員〉 各回 30 人 どなたでもご参加いただけます。
※ただし、小学 3 年生以下は保護者同伴をお願いします。

〈申し込み〉 当日、**午前の部**は午前 10 時 55 分から、**午後の部**は午後 1 時 25 分からぎよぎよランド 2 階創造の部屋で先着順に受け付けをします。

開催中

梅まつり

～ 3月2日(日)まで ～

赤塚山公園内 梅園にて



赤塚山公園内に植栽している 25 品種 281 本の梅の花をご覧ください。
なお、開花状況により、期間が変更になることがあります。

開花状況は、豊川市ホームページ、フェイスブック公式ページ「豊川市赤塚山公園 (ぎよぎよランド)」にてご覧いただけます。

ニ特集 **みんなの願いが叶いますように**

平成25年12月18日～平成26年1月13日まで企画展「干支の生き物」を開催しました。「絵馬に願いごと」のコーナーでは、たくさんの方に願いごとを書いてもらい、ぎよぎよランドがとてもしぎやかになりました。みなさんの願いごとが叶って、素敵な2014年になりますように！～ありがとうございました～



何を書いたのかな？



ステキ～!!



たくさんあるね



行事・イベントの報告

平成25(2013)年12月～
平成26(2014)年1月

- 12/1 第43回赤塚山公園セミナー
「ウマのふれあい塾」37人



- 12/2・3 第29回全国飼育の集い
広島大会に参加
12/9 防災訓練
12/12 馬飼養衛生管理技術地方講習会
12/13 田原ライディングクラブへ視察
12/16 梅の木ボランティア8名が
梅の木のせん定



- 12/18 企画展「干支の生き物」～ 1/13
1/4 写生展～1/31

編集後記

2月11日に第44回赤塚山公園セミナー「さかなの解剖」を開催しました。8組23人の親子が協力しながらニジマスを解剖し、スケッチをしました。みなさん、真剣に取り組んでいただきとてもうれしく思っております。ご参加ありがとうございました。

セミナーの様子が編集の都合により、本号に間に合わず掲載することができませんでした。そこで、ぎよぎよランド1階ロビーで解剖のスケッチとその様子を3月10日まで展示していますのでご覧ください。 前田 民男

動物取扱業に関する表示

氏名又は名称：豊川市長 山崎 実 登録番号：動東第119号
事業所の名称：豊川市赤塚山公園 登録年月日：平成18年9月28日
事業所の所在地：愛知県豊川市市田町東堤上1-30 有効期間の末日：平成28年9月27日
動物取扱業の種別：展示 動物取扱責任者：前田 民男

編集・発行

あかつかやま No. 49 2014/2/15
豊川市赤塚山公園
〒442-0862 豊川市市田町東堤上1-30
TEL(0533)89-8891 FAX(0533)89-8892